

公同礼拝

2023年11月12日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 市橋佳子

前 奏

招 詞 詩編67編2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 94編16～23節(旧93)

マタイによる福音書18章15～20節(新35)

祈 祷

使徒信条

讃 美 歌 454

説 教「教会の言うこと」牧師 高橋和人

祈 祷

讃 美 歌 287

献 金

頌 栄 541

祝 祷

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

11月の祈り

定められた時間に、限りあるものとして生きながら、限らない主の慈しみに生かされていることを覚え、主の恵みを振り返ることができるように。

終わりの日、主が再び来られるという希望を持って信仰の歩みを重ねることができるよう。

子どもたちが守られ祝されて霊と肉体共に健やかな成長が与えられるように。

アドベント、クリスマスに向けて信仰の歩みが整えられるように。

今日の祈り

子どもらを招き祝福された、主イエスの御心を受け継ぎ、子どもたちの心と体と霊の成長に主のみ手と祝福が与えられるように、

紛争地の子どもたちが守られるように。一刻も早く、平和がもたらされるように。

「教会の言うこと」 高橋和人

マタイによる福音書18章15～20節

福音書に教会という言葉はマタイ16:8と18:7にある。主イエスが教会について直接語られている大切な個所になる。教会憲章と呼ばれる。

まず、「あなたに罪を犯したなら、二人だけのところで忠告しなさい。」と罪に対する忠告がある。罪への忠告は告解から牧会へと受け継がれてきた。しかし、「(あなたに対する)罪」と「二人だけ」と指定されている。

面と向かって罪を忠告することができるだろうか。むしろ友を失うことになる。聞き入れられなければさらに人を呼び、教会に申し出るように言われる。主が命じておられることを求めねばならない。

ここは、小さな者、迷い出た者についての文脈にある。それぞれ「この子どもようになる」と「探し出される」こと、そして小さい者を受け入れることがみ心になる。

罪を忠告できるのは自分も罪人であることを知っているもの。迷い出た者、小さい者、主の御許を離れた愚かなもの、救いの必要なものであることを認めていなければならない。

罪は自分を大きくし、迷い出たことを認めず、自立した大人であると思わせる。しかし、そこで糸の切れた凧のように神から離れてしまう。赦される恵み、立ち帰る恵みを失ってしまう。

それは、自分自身に当てはまることだ。地上にはこの罪に気づかせてくれるものはない。ただその矛盾や空しさに襲われる。これに忠告できるのは自分もまた罪人であり、小さな者であることだけだ。

主イエスは地上の教会がつなぐこと解くことが天でもつながれ解かれることを教えられた。教会は今の地上の主イエスの生きた体、それゆえ地上の判断基準ではかることはできない。

主は教会の最も小さい姿を語る。教会の本質がそこにある。教会は一人ではない、しかし、大勢である必要はない。主の名によって集まり、祈る。その純粋さが大切にされる。

では地上で心をつにして祈ることは何か。使徒信条は、聖なる公同教会に続いて、聖徒の交わり罪の赦し、を信じると告白する。聖徒の交わりは祈りの交わりであり、そこでは罪の赦しが祈られる。

教会の姿は主イエスの十字架に赦され、今も赦されなければならないことを祈る者たちに、主イエスが伴った下さることだ。